

## 熱工学コンファレンス 2019 開催（中止）報告

**熱工学コンファレンス 2019 実行委員会**  
**委員長 田川正人（名古屋工業大学）**  
**幹事 保浦知也，服部博文（同上）**

### 1. はじめに

「熱工学コンファレンス 2019」は、2019年10月12日（土）、13日（日）にわたり名古屋工業大学（御器所地区、名古屋市昭和区御器所町）で開催されることになっていましたが、開催期間中に大型で猛烈な台風第19号が襲来したことから、全日程の開催中止を余儀なくされました。以下では、本コンファレンスの概要、開催中止の通知・公表ならびに中止にともなう事後処理、検討すべき課題等について報告させていただきます。



図1 コンファレンス会場（名古屋工業大学，御器所地区）

### 2. 熱工学コンファレンス 2019 (No. 19-303) の概要

本コンファレンスでは下記のオーガナイズドセッション（14テーマ）と一般セッションを設けて講演発表を募集しました。なお、本コンファレンスは日本機械学会若手優秀講演フェロー賞の選考対象講演会ですので、同賞の受賞資格を有する方には講演発表申し込みの際に審査希望の有無を選択いただきました。

- OS 1： 外燃機関・排熱利用技術
- OS 2： 火災・爆発
- OS 3： 電子機器・デバイスのサーマルマネジメント
- OS 4： 多孔質体内の伝熱・流動・物質輸送現象とその応用
- OS 5： 乱流伝熱研究の進展
- OS 6： 機器設計のためのラピッドシミュレーション
- OS 7： 燃料電池・二次電池関連研究の新展開
- OS 8： マイクロエネルギーの新展開
- OS 9： バイオマスの変換における熱工学
- OS 10： 凝固・融解伝熱および結晶成長の新展開
- OS 11： ふく射輸送制御
- OS 12： 未来型エネルギー変換・推進システムのための燃焼研究
- OS 13： 沸騰・凝縮伝熱および混相流の最近の進展
- OS 14： 熱工学コレクション 2019（熱コレ 2019）

講演発表申込の総数は186件になりました。そのうち、若手優秀講演フェロー賞の審査対象講演は100件でした。

本コンファレンスでは、8講演室で合計41のセッションが組まれていました。また、特別講演（下記）、熱工学ワークショップ（No. 19-353，第96期熱工学部門講習会委員会担当）、熱工学部門賞・部門一般表彰贈呈式、意見交換会が予定されていましたが、これらの行事もすべて中止となりました。なお、熱工学ワークショップについては本ニュースレターにおいて別途報告があります。

【特別講演】

- ・演題：超電導リニアの開発経緯と鉄道総研における高温超電導コイルの開発
- ・講師：長嶋 賢 氏（鉄道総研 浮上式鉄道技術研究部 部長）

3. 開催中止の通知・公表ならびに開催中止にともなう事後処理について

台風第19号は10月9日（水）12時の時点では図2の進路をとると予想されていました。このような情報に基づいて、本コンファレンスの開催中止の判断について、下記の日時と方法で通知および公表しました。

- ・10月7日（月）、8日（火）「自然災害時の対応について」をホームページに掲載。
- ・10月8日（火）8:28 日本機械学会のメーリングリスト（5部門）で今後の対応を通知。
- ・10月10日（木）13:59 日本機械学会のメーリングリスト（5部門）で開催中止を通知。
- ・10月10日（木）17:00 熱工学コンファレンス2019のホームページ（下記アドレス）で全日程の開催中止を公表。（詳細については <https://www.jsme.or.jp/conference/tedconf19/> を参照ください。）

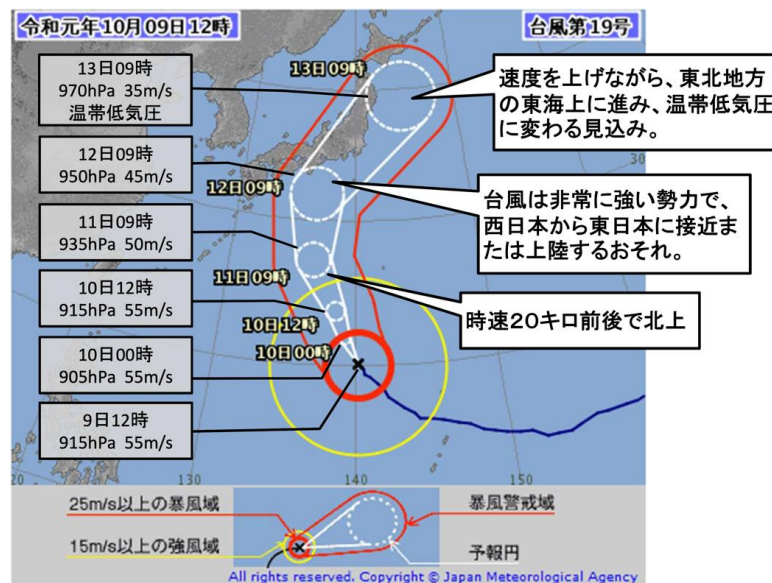


図2 台風第19号の進路予想図

（気象庁「2019年10月9日報道発表」より抜粋引用）

[https://www.jma.go.jp/jma/press/1910/09a/20191009\\_1400.pdf](https://www.jma.go.jp/jma/press/1910/09a/20191009_1400.pdf)

開催中止に伴う事後処理については、熱工学部門、実行委員会、部門担当事務局の間で様々な観点から検討した結果、日本機械学会「地震等の災害時に於ける本会行事の対処方針」に則り、「講演論文集は発行する」、「掲載論文は既発表とする」を基本方針とすることに決まりました。また、参加登録費の取り扱いについては下記のとおり対処するとともに、意見交換会の会費および熱工学ワークショップの弁当代は全額返金することになりました。

- ・講演予定者（登壇者）：登録費（講演論文集代と論文整理費）を頂戴する。事前参加登録された方には支払い済みの事前参加登録費を頂戴し、事前参加登録されていない登壇者の方には学会員資格に準じた登録費を請求する。
- ・事前参加登録者で登壇者ではない方（共著者を含む）：講演論文集代（会員：5,000円、会員外：6,000円、学生：2,000円）を頂戴し、差額を返金する。

事前参加登録いただいた方（242名）には、10月18日に講演プログラム（冊子）と講演論文集（電子媒体）を郵送し、10月28日に領収書を郵送しました。一方、事前参加登録されていない登壇者の方（48名）には、10月31日に講演プログラム、講演論文集と合わせて請求書を郵送しました。返金手続き（外部業者に委託）は11月1日に開始できる見込みです（現在進行中）。

4. 検討すべき事項について

開催準備において様々な問題に直面しましたが、そのなかでいくつか検討すべき事項を以下に挙げておきます。

- ・参加登録：事前参加登録期間が終了した時点（9月13日）で参加登録ページ（Web ページ）を閉じましたが、当日参加登録の手続きを簡略化するために開催直前まで参加登録ページを開けておくことは一考に値すると思います。
- ・参加登録費：日本機械学会の講演会において、「博士課程（後期）の学生（社会人を除く）については、会員資格が正員であっても参加登録費を学生と同額とする」との取り扱いが採用されることがあります。これに関する熱工学部門の対応を定めておいた方がよいと思います。
- ・協賛学会員の講演：協賛学会員の講演発表（登壇）の可否について議論しておくことが望ましいと思います。
- ・講演論文の書式：本コンファレンスでは「1 頁書式」と「2～6 頁書式」を選択可能としました。ただし、「投稿原稿執筆要領・論文投稿」の Web ページには、講演論文が 1 頁書式（英文アブストラクトなし）で提出された場合には、若手優秀講演フェロー賞の選考対象にはならない旨の注意書きを記載しました。その理由は、本賞に関する規定に則り「表彰対象者の講演発表と講演論文」に基づいて評価する際に、1 頁書式では「日本機械学会学術誌（日本機械学会論文集, Mechanical Engineering Journal 等）に論文として投稿するに値するレベルにある」か否かの評価が難しいからです。1 頁書式の講演論文を本賞の審査対象とするか否かについて部門の規定があれば助かります。
- ・Web システムの共通化：コンファレンス Web サイトの開設にあたり、サイト、基本テンプレートは日本機械学会より提供され、開催地と実施内容に即した案内等のページを作成することには問題がありませんでしたが、参加登録、論文投稿システムについては、(1) 自作する（多大な作業時間が発生）、(2) 業者に依頼する（多大な費用が発生）、の二択しかありませんでした。本コンファレンスでは、参加登録システムについては (2) を、論文投稿システムについては (1) としましたが、完全自作ではなく、前回の富山で作成されたシステムをご厚意で流用させていただきました。これらのシステムは、日本機械学会の全部門における部門講演会で共通化できるものです（部門の事情により多少のカスタマイズが必要とは思いますが）。日本機械学会全体、講演会実行委員会の作業労力と費用負担を減らすためにも、部門を超えた参加登録・論文投稿システムを構築すべきだと思いました。
- ・保険の加入：本コンファレンスでは賠償責任保険と傷害保険に加入しましたが、「興行中止保険（イベント保険）」には加入していませんでした。現時点では本コンファレンスの収支が確定していませんが、開催中止にともなう経費の補償（リスクの軽減）について考慮しておくべきかもしれません。

## 5. おわりに

熱工学コンファレンス 2019 には実行委員会委員として下記の先生にご協力いただきました。齋木先生には会場案内および若手優秀講演フェロー賞の審査資料の作成、内藤先生には会場運営の取りまとめをご担当いただきました。また、講演申込の受付、講演論文の投稿、講演プログラムの作成をサポートする Web システムは、熱工学コンファレンス 2018 の実行委員会（富山）からご提供いただきました。ここに記して謝意を表します。

石野洋二郎（名古屋工業大学）、古谷正広（同）、飯田雄章（同）、内藤 隆（同）、齋木 悠（同）、板谷義紀（岐阜大学）、廣田真史（三重大学）、長野方星（名古屋大学）、桑原不二朗（静岡大学）、佐野吉彦（静岡大学）

直前での開催中止という非常事態にあたり的確なご指示とご助言をいただきました丸田薫先生（熱工学部門長）、鈴木雄二先生（同副部門長）に深謝いたします。また、事後処理の様々な場面で迅速に対応くださった日本機械学会熱工学部門担当の小倉辰徳氏、篠原智也氏に感謝いたします。

最後になりましたが、熱工学コンファレンス 2019 に参加予定の皆様には開催中止ならびに事後処理についてご理解とご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。